



会社名 フォスター電機株式会社  
代表者名 代表取締役社長 CEO 岸 和 宏  
(コード6794、東証プライム市場)  
問合せ先 IR・ガバナンス統括部長 久米 清 隆  
(TEL: 042-546-2305)

2026年8月7日発表の2027年3月期の第1四半期決算において、想定されるご質問とその回答について以下の通りお知らせいたします。

Q1 スピーカ事業の損益面での説明で、「米国関税の一時的負担」とあるが、5月の決算説明会では米国関税は無くなったと説明受けているが、状況が変化したのか

A1 IEEPA に基づく米国相互関税は違憲判決を受け停止となりましたが、それまでに支払った分の在庫販売での費用化が今第一四半期までは一部発生しています。一方、当初は顧客からの回収見込みとしていたものが、違憲判決によって、顧客からではなく政府からの還付回収となり期ズレが生じましたが、通期でみれば5月の説明会にて説明した内容に変更はありません。なお、直近で報道された米国による追加関税の影響につきましては、現在影響を見極めている状況です。

Q2 スピーカ事業の損益面での説明で、「資材費高騰に伴う追加費用の一時的負担」とあるが、具体的にどの程度影響を受けているのか、またその追加費用は顧客負担となるのではないのか。

A2 中東情勢による原油等資源価格の高騰の影響で、スピーカ製造等にかかる原材料価格が高騰している状況です。当社としては、サプライヤーと双方で先行購入による在庫積み増しを実施し安定した調達を確保しておりますが、今後も影響が懸念されることから、納期遅延を避けるため調達を優先しつつ顧客にご負担をお願いしている状況です。今後も、引き続き中東情勢等の動向を注視しつつ、有事に対し当社ができる備えをすすめていきます。

Q3 スピーカ事業の損益面での説明で、「中国人民元高の影響」とあるが、わかりやすく説明してほしい。またその影響額はどの程度で、今後の為替対策は何か考えているのか

A3 中国製造拠点において製造して輸出する製品について、調達および販売の通貨は米ドルがベースですが、昨今調達部材や調達先の多様化から人民元建て調達が増えつつあり、為替相場も米ドルに対し人民元高となっていることから、為替コストが増大したものです。対策としては、追加コストにつきまして顧客にご負担をお願いするとともに、人民元建て調達・米ドル販売の取引を他拠点に移管し、中国製造拠点はより中国ローカルビジネスを中心の体制とし、通貨ミスマッチが起りにくい構造に変化させます。加えて、更なる固定費の圧縮や為替ヘッジも機動的対応も検討していきます。

Q4 ESTec の第1 四半期は事前に公表されていたが、前年同期比大幅減益となっているが原因は何か。

A4 5月の決算説明会でも説明した通り、今期は前期に続き ESTec における中国一部メーカー向けの販売が減速している状況で、かつ比較的利益率の高い製品の売上が減少していることから、売上・利益とも大きく落ち込んでおります。ただ、この落ち込みは期初から想定していた動きです。

Q5 ESTec の第1 四半期決算実績を踏まえると、フォスター電機本体の決算は赤字となっており、セグメント別ではスピーカ事業が大幅赤字になっている。中期事業計画の2 年目として順調な状況とは言えない変化が起きているのか。

A5 フォスター電機の利益について、上記 Q1～Q3 の影響でスピーカ事業が大きく落ち込んだため赤字を計上しておりますが、回答内容の通り一過性の落ち込みと考えています。車載ビジネスにおける成長戦略であるブランドアッププレミアムビジネスは順調であり、また新規ビジネスも予定通り収益貢献を見込んでおります。よって、通期業績予想については、期初公表した数値に変更はありません。

#### 〔注〕留意事項

上記内容には将来の見通しに関する記述が含まれています。これら将来の見通しに関する記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではなく、状況の変化など様々な要因によって実際の業績や結果と異なる場合がありますのでご承知おきください。

以 上

本件に関し、当社コーポレートサイトにて「2027 年3 月期 第1 四半期決算補足資料」を公開しておりますので、こちらをご覧ください。

[https://ssl4.eir-parts.net/doc/6794/ir\\_material\\_for\\_fiscal\\_ym/201883/00.pdf](https://ssl4.eir-parts.net/doc/6794/ir_material_for_fiscal_ym/201883/00.pdf)